

平成 27 年度第 2 回仙台市科学館協議会議事録

日 時 平成 27 年 12 月 20 日（日）10：00～12：00

出席者 和泉眞喜子，伊藤仟佐子，大草芳江，小松尚哉，田中真美，鶴谷研，寺前紀夫，樋口和美，平吹喜彦，やしろ美香の 10 委員
（欠席：長瀬敏郎）
館長，副館長，庶務係長，主任指導主事，指導主事 2 名，主任，生涯学習課長，生涯学習課主幹，生涯学習課主事

次 第

1 開会

2 新委員紹介

やしろ委員の就任について紹介

3 館長挨拶

4 会長挨拶

5 議事

○寺前会長が議長となり，会議を進行

○議長より，議事録署名人に田中委員を指名

（1）平成 27 年度仙台市科学館特別展について

宮崎指導主事より資料 1，資料 1－2 により説明

（質疑等）

【平吹委員】2～3 伺います。評価の中で，来館者の人数が予想に届かなかったとのことでしたが，傍目に見れば一日に 900 人の来館は素晴らしいことであると思います。予測はどのようにたてたのでしょうか。来館者数については，評価の面で大きな注目点になると思いますが，それほど厳しい評価をしなくてもよいのではないのでしょうか。次に，全国に類似のイベントがたくさんあると思いますが，そういったものを参考に企画しているのかどうか伺います。また，今回の特別展は，地元の機関・団体とコネクションをつくり，ユニークな活動であったと思いますが，そのあたりの大変さ，これからも地元根差した取り組みをしていくのかどうかを伺います。

【宮崎指導主事】来館者の人数設定に関しましては，今年ほうみの杜水族館の開

館の影響を受けることが懸念されたことから、昨年度の恐竜展の来館者数 50,000 人の 7 割程度を目標としました。

他都市のイベントを参考にしたかどうかにつきましては、昨年度の静岡でのスポーツ科学展を参考にしましたが、科学技術館の巡回展示物を基本にし、それ以外に関連個所から物品を借用したり、製作したりして、様々な館にあるものを参考としました。

地元との係わりにつきましては協力的でございました。開催の主旨をお話すると、好感触を得ることができました。今後も地元の団体と深く連携していくことが大切であると感じています。来年度以降も、仙台市・宮城県とゆかりのあるものを取り上げ、連携していきたいと考えています。

【館長】常設の自然史系展示についても、あくまで地元の自然或いは地元で採取できる岩石・化石を中心としていますので、特別展についても毎年度何か地元に関わりがある部分を作りたい気持ちがあります。昨年度の恐竜展では、宮城県で恐竜の化石が発見された実績がないので、テーマとあまり関連がありませんが、地元で採れた恐竜の時代の化石の紹介をしました。毎年度、地域的な係わりを意識することを心がけています。

【寺前会長】来館者数は多いほどよいことに間違いありませんが、人気のあるテーマばかり取り上げてよいのか、と。役所ですので、財政的事情もあるとは思いますが、科学館としての立ち位置、多少客足は落ちても、これは取り上げておこうといったところを進めてもらった方がよいと感じます。

【館長】毎年度テーマを設けながら「物理」「化学」「生物」「地学」の分野を順に回しています。その中で、できるだけ多くの方に見ていただける工夫をしています。例えば、「化学」の分野の人気がない中で、どうやって興味深く見せていくことができるのかという点が、我々にとっても大きなテーマであります。「化学」関連のイベントの際は、日本化学会にも熱心に取り組んでいただき、たくさんの人的応援をいただいたり、物を提供していただいたりしていますが、結果で見ると一番振るわないといったことになりますので、引き続き頑張っ参ります。

【小松委員】今年度はとても検討された特別展でした。内容も工夫され、体験を重視した点が好評でした。来年度の昆虫展は、子どもたちの興味のあるところですので、バランスよく科学を提供していくという点で、よい方向性だと思っています。

その中で気になった点を 2～3 お話しします。パネル展示を開展式の日には拝見しましたが、大人向けの解説が多かったと思います。ターゲットをどのあたり、どのレベルにするかによって、かなり作り方が違ってきます。画像を多く用いたり、字を大きくしたり、ひらがなを使ったり。子どもがたくさん来館するのであれば、そういった工夫も必要かと。来年度に向けての反省のひとつ。ただ、科学

館はアミューズメントパークとは違いますので、科学と結びつけなければ科学館としての特徴が出てきませんので、そのあたりの展示の内容について精査していただければよいかと。

2点目ですが、エントランスの展示について工夫が足りなかったと発言がありました。そんなこともないかな、と。アンケートでも、今回の特別展を科学館に来て知ったといった回答が2番目に多いということは、エントランスの展示を見て特別展に入った方がいると読み取れます。大事なことだと思います。初めて来館して、特別展の開催を知り、興味を持って入場した、といった流れが見えている気がします。そういった点を大切にすると、来館者が少しずつ増えていく可能性があるように思います。リピーターだけではなく、新しく来られる方をターゲットに引き寄せることができるエントランス展示は大切。エントランスの展示が悪かったという評価はないので、気にせずともよいと思います。

来館者の内訳で、大人が多いか子どもが多いか、年代別の内訳を伺います。

【宮崎指導主事】アンケートの結果と同じで、8～9割が小学生・幼児とその父兄で、中高生に関しては、1割まで行っていません。

【小松委員】中高生の掘り起こしは必要になると思いますが、小学生や未就学児の来館が多いのであれば、先ほど述べたように、解説パネルの工夫の必要さが見えてきます。そういったところを考えて行くと、より好評を得られると思います。

【和泉委員】ターゲットの難しさについて。せっかくよい内容で関連イベントを開催していますが、参加人数がとても少なく残念です。小さな子どもは目で見て楽しめるもの、親しみやすいものを求めますが、ただそれだけではなく、科学の道へ引き込むことが必要です。そのあたりの折り合いが難しいところですが、工夫する余地があります。

【やしろ委員】小松委員と同じくエントランスの展示について大変よかったと思います。入った瞬間にスポーツ科学への導入のイメージがありました。エントランスホールなので、来館者が専門的な展示があることを認識していなかったのでは。専門的な展示という捉え方ではなく、導入部分と捉えれば、エントランスの展示はよかったと思っています。

【館長】エントランスの展示につきましては、内容的には私もよいものだと思います。実際の記録も大きさ・高さで表現しており、なかなか興味深いものでした。障害者スポーツの車椅子の工夫なども、興味深く見ていただきたい思いがありました。理解して見ていただいた方は多くなかったと思っています。展示する側として、おそらくもっとよい情報の発信の仕方があって、それができていればもっと関心を得られた、と。エントランスの展示は反省すべき点があったと思っています。

展示のターゲットにつきましては、パネルは小学4年生までに学習する漢字を

用い、かつ、ふりがなをふり、読めるようにしていますが、今回はパネルの数も多く、全てつぶさに見ていける感じではなかった事と、表現を簡単にしても、内容的に難しい面もあったのだらうと思っています。工夫することによって、ターゲット別の展示もできると思います。我々も問題意識はありますので、引き続き来年度以降も考えて参りたいと思います。よい実例やアイデアがありましたらよろしくをお願いします。

【伊藤委員】剣道や柔道といった日本のスポーツが手薄でした。マイナーではありますが、日本の伝統のスポーツも手掛けていただくとよかったです。

【宮崎指導主事】相撲のパネルは1枚展示しました。剣道・柔道に関しましては、検討はしましたが、展示を考えた時に若干難しいところがあり、今回は見送りしました。

【館長】相撲や柔道の技はまさにテコの原理などを使っていると思いますので、そういったところを解説できれば面白いものができるかな、と。次に機会がありましたら検討させていただきます。

【小松委員】来年度の昆虫展や地学系のテーマの際に、経費の削減の意味も含め、科学館の収蔵品で、テーマに関連づけられるものがあればどんどん展示していくとよいと思っています。地学でいうと、増田先生が集められた仙台市内の化石がたくさんあります。普段、収蔵品を見る機会が少ないですが、鉱物にしても化石にしても、見るに堪えるものがこの科学館にはたくさんありますので、ぜひそういうものを生かしていけるとよいのかな、と。今年の文化祭で化石などを展示したところ、生徒たちに好評でした。仙台市内でこういったものがあるということが、意外と知られていません。小企画展では取り上げていると思いますが、おそらく普段は見られていない可能性があります。特別展だからこそ、人が集まり、見ていただけるといったところがありますので、ぜひ生かして行くことよいと思います。

【館長】ありがとうございます。地学関係だと増田孝一郎先生の増田コレクションが寄贈されており、昆虫関係ですと高橋雄一先生の高橋コレクションを、寄託という形ですが収蔵しています。まさに地元の貴重なコレクションですので、活用について考えて参りたいと思います。

【寺前会長】駐車場はどうでしょうか。駐車場が満車で諦めるのか、或いは手段を地下鉄に変えるのか。恐竜展で駐車場が満車になったようなことはありましたか。

【館長】恐竜展の際は何日間かございました。2011年度のトリックアート展の際は、来館者数が60,000人でかなりの日数、青年文化センター近くまで車の列ができました。1日に1,500~2,000人の来館者があると、満車になると試算しています。チラシにも、公共交通機関を使って来館いただくよう記載していますが、実

態は、お示した状況です。昨年度の恐竜展も 50,000 人の来館がありました、なぜトリックアート展のような状況にならなかったかといいますと、部屋に入ったり、写真を撮ったりするトリックアート展と違い、見て終わりのため滞留時間が短かった点。物理的に、来館者数は 60,000 人が限界かと思っています。駐車場の対策といたしましては、ホームページで混雑状況がリアルタイムで確認できるようにしていますので、ぜひ参考にしていただきたいと思います。

【寺前会長】それがあって、来館の手段が少し地下鉄に流れたのでしょうか。

(2) 第 62 回仙台市児童生徒理科作品展について

松本指導主事より資料 2 により説明

(質疑等)

【樋口委員】今年の市長賞受賞作品に、割合的に化石の標本が多いと感じます。「自由研究の進め方を学ぼう」で基礎知識を得て、結果に繋がっているということでしょうか。

【松本指導主事】3 ページ目に「自由研究の進め方を学ぼう」の参加人数を載せていますが、標本に関しまして、植物・動物より地学の参加人数が多く、人気が高いところです。実際やってみるとかなり難しいものなので、挫折する者も多い中、根気強くやったもの、技術も高く、市長賞に値するレベルのものが残ったと思っています。

【樋口委員】基礎知識を学べる機会があるのは素晴らしいと思いますが、結果を見ると偏りがあるイメージを受けました。「自由研究の進め方を学ぼう」では、例えば気象など、分野をもう少し広げてもらえればよろしいかと思います。

【鶴谷委員】毎年夏休み前に「自由研究の進め方を学ぼう」という講座を開いていただき、子どもたちが図鑑などで調べてもわからない点を、科学館の指導主事の先生に教わり、また、これを機に自由研究をやってみようという形で、理科の興味・関心を高めていただいていると思います。

小学校では理科部会担当の教諭も、理科の担当であったり、理科が好きであったりしますが、理科の免許を持っている者ばかりではありません。一次審査・二次審査で、約 70 名弱の教員が作品を審査する際には、科学館の指導主事の先生方に教えていただき、それを経験した者からのアンケート結果によると、物理・地学・生物・化学の理解が深まり広がっているところがあります。若い教員が増える中で、研修にもなり子どもたちに還元されています。

【寺前会長】相対評価でなく絶対評価で審査されるということで、先生方も大変だなと思いながらお話を伺いました。

(3) 仙台市科学館改修等における P F I 手法導入の検討について

生涯学習課主幹より資料 3、資料 3 別紙により説明

(質疑等)

【平吹委員】民間委託は良い面もあれば悪い面もあるということですが、教育という現場においては、より慎重に進めるべきだといった考え方の中で、財政部局に対しどのように説明していくのか伺います。

【生涯学習課主幹】P F I 事業といたしますと、包括的に全てを民間に委ねるといのが一般的ですが、今回、学校教育事業の質を確保する点を重要と考え、その部分は市直営で行うということで、教育に関する配慮を考えながら進めており、そのような点を財政当局とも詰めながら、P F I 事業の想定をしているところです。

【小松委員】先にP F I 事業を導入している天文台では、天文台学習が続いていますが、完全に教育現場から引きあげ、民間に全てお任せしています。脈々と続けられてきた天文台学習に関しましては、直営当時の天文台学習のコンセプトとか進め方として、教育という立場の中から、子どもたちに何を学ばせるべきか、しっかりしたポイントを持っていたような気がします。教育現場から引っ込み、全く別の立場の方がやられていると、ある程度の質を残しながら進められているのですが、流れの中でこなしているように感じざるを得ないところがあります。科学館学習は直営で残されるということですが、携わる方たちが、そういうことをしっかり踏まえながら進められる環境、指導主事の先生方が自分たちの教育の意味合いをきちんと生かせる立場の中でのP F I 事業になることを願います。脈々と続いている科学館学習のコンセプトを大切にしながら、新しい支援も考えて行くということが大事なのかな、と。

【館長】今回は天文台のケースとは異なり、科学館学習については従来通り指導主事が行うということで人数も確保します。展示と絡めて教育をしていることがひとつの特徴ですが、展示の部分は民間へお任せする形になりますので、そこがうまくいくのかという懸念が教育委員会でもあります。その点につきましては、市と事業者の話し合いの場が今後も残されますし、制度の細かい作り込みがこれからということもありますので、展示部分のクオリティが落ちないように、よい話し合いと制度設計等を進めて参りたいです。来年度アドバイザー業務委託をしていくことになると思いますが、その中でも適宜ご相談しながら進めていければと思っています。

【生涯学習課主幹】学校教育業務に関しましては指導主事の方で、学芸業務については民間事業者で分担し、それぞれの専門業務に特化し、それぞれの得意分野で力を発揮し事務の効率化とレベルアップを図って行きたいということを基本的に考えているところです。

【寺前会長】事務の効率化というのは大変重要であると思います。ドラスティックに変えていくとどこかでほころびが出ます。ゆとり教育が一時期そういう傾向にありました。教育関連業務は制度設計を考えながらおやりになるということでは

結構かと思えますけれども、いろいろな可能性を考えながら進めていただけたらな、と。一気に変えると何かほころびが出そうな不安感があるといえますか、教育に携わると、少しコンサバティブになってしまいます。

現場の先生方の横のコミュニケーションも重要です。人の繋がりの中でボランティア活動もある訳ですし、そういったところを制度運営の中に生かしていただきたいと思えます。

【平吹委員】今回の話とは関係しないかもしれませんが、昨今、自然に触れるといった体験が減少し、日々の生活にも影響を及ぼし、極端にいうと生きていく力を削いでしまっているという思いがあります。おそらく学校現場も先生方も忙しく、なかなか機会をつくれのではないかと思いますので、野外に出て体験するという一番基礎の部分を、特に小さい時期に体験できる場所を補完するような取り組みを検討いただければ、と思えます。

【生涯学習課長】所管施設には、科学館の他にも、天文台、泉ヶ岳にある自然ふれあい館等、直接学校の活動と関わりながら、教育という分野のなかで、自然と触れ合いながら子どもたちの興味・関心を引くものがたくさん用意されています。教育委員会の方からも、子どもたちに対する教育の部分、特に科学館については長い歴史があり、多くの方々との係わりによって今の形を築き上げており、その本質・ねらい・思いを忘れないように、揺らがないようにというお話を頂戴しております。来年度は調査、最終的判断は次の機会になると思えますが、ねらいを外すことなく、或いは忘れることなく、思いをしっかり引き継いで参りたいと思っておりますので、今後ともご意見よろしくお願ひします。

(4) その他

庶務係長より資料4、参考資料により説明

(質疑等)

【小松委員】どこでもパスポートの検討も含まれますか。

【庶務係長】今回は、基本的には条例上の入館料の改定ということです。

【館長】個別に入館料の改正をしようとすると、それぞれ条例改正をしていかなければならず、審議していただく議会も含め負担となりますことから、パブリックコメントの結果も踏まえながら、一括して財政担当部署で取りまとめて提案していく形になります。おそらく、それほど高額な値上げにはならないと思われまます。

【寺前会長】開会前の館長との話で、10円単位を窓口で扱うのは大変、自動販売機等の利用の可能性について尋ねたところ、入館料にはどこでもパスポートや割引・減免等いろいろな区分があり、なかなか一本化しづらいとのこと。効率化できれば人の問題或いは計算間違いなどが減るのではないかと、いう気がいたしました。

【館長】P F Iの制度が導入されれば，入館料は民間の事業者が扱うので，自動販売機等も導入しやすいのかと。事業者の提案になるかと思ひます。

6 事務連絡

○次回の協議会について，年度内，2月下旬から3月に第3回目を予定しています。開催日時につきましては，会長と調整のうえ，後日ご連絡いたします。年度末でお忙しいとは思ひますが，ご出席よろしくお願ひいたします。

7 閉会

平成 年 月 日

議事録署名人

仙台市科学館協議会 会長

仙台市科学館協議会 委員